ビデオ判定についての考察

TV 観戦していてトライが成ったかどうかをレフリーがビデオ判定を待つ場面を見て思いました。
ラグビーもグローバリゼーションの時代でありワールドカップ開催を目指している日本として科学的能力を発揮するのも時代の流れでしょうが、無駄な間の抜けた感じがしました。時計を止めてあると言うことも問題外です。アシスタントレフリーに線審としてタッチの判断を補助してもらうことは別問題です。

ゲームは双方の話し合いで始まり、問題が起きれば話し合いで解決した時代からだんだんと Case Law も整備されていく中で話し合いがスムーズに行われない時もあって判定者を頼むことになりました。
「THE HISTORY OF THE LAWS OF RUGBY FOOTBALL」の 1866 年の記録に Umpire が初めて出てきます。それでも中々うまくいかない場合もあったようです。

1866. In “ Laws of Football as played at Rugby School ” it was laid down : “ 2 umpires must be rovided. ”

しかし両キャプテンが全ての論争の唯一の決定者（he sole arbiters）であったことが分かります。

1875. Umpires were appointed if desired, and the Law read : “ Unless umpires are appointed, the captains of the respective sides shall be the sole arbiters of all disputes, and their decisions shall be final. ”

1885 年に両キャプテンはチームクラブの役員が選んだレフリーが Law に成文化されます。これによりレフリーが定着化しはじめます。

1885. The Law read : “ In all matches two umpires shall be appointed and a referee ; the latter official must be chosen with the consent of either the respective secretaries or captains of the contending clubs or bodies. ”

umpire と referee の言葉の意味から umpire から referee になった経緯を考えてみましょう。

umpire・・・person chosen to decide question
person chosen to enforce rules & decide disputes
クリケットからきた言葉と言われています。

referee・・person chosen to decide between opposing parties
refer to・・・・・・問い合わせる
refer oneself to・・・～に依頼する。任せる
referee・・・・・・任された人。任させられた人

1885 年に 2 人のアンパイヤと 1 人のレフリーが指名されるようになりましたが一年前の 1884 年にスコットランド vs ウェールズのゲームで 1 人のレフリーで行われたという記録もあります。

1884. The International match, Scotland v. Wales was played with one referee and no umpires.

それら先鋭国の先行により 1890 年代になって 1 人のレフリーによるゲームが定着していきました。議論が重ねられた結果で重い意味を持っています。
レフリングはラグビー精神を考える時、基本的に重要な問題です。ラグビーは人間的なスポーツとして輝ける反則という出来事によって誕生し、人間性豊かに発達してきました。レフリングは芸術性を深く考えられてその妙味を進求されてきました。
ラグビーはゲームで勝敗だけ決めることがすべてではないことは言うまでもありません。プレーヤーもチームもビジョンを大切にし、堅持して楽しむことを喜びとしてきました。レフリーも 31 人目のプレーヤーとしてよいゲーム創生に努めることが大切です。トップリーグ等は別にしてほとんどのゲームのレフリーの皆さんは一番近くでプレーを見ている人として自信を持ちよく走って常識的（reasonable）も普通の方法でラグビーを楽しむことに誇りを持って下さい。

あとがき

円周率の話と比較してみると一つの考えが出てきます。

円周率は 3.14・・・と続く値ですが宇宙へ行く話ならともかくとして日常の社会生活の中では「3.14」は常識的で十分な値として使われています。少し前の話ですが学校教育にゆとりが必要と学習内容を軽減し授業時間数を削減する中で小学校では円周率は「3」として計算することになりました。現在はまた元に戻っていますが、短絡的で筋違いも甚だしいもで、簡単なだけでなく社会に通用し目的にかなう常識的なものでなければなりません。

他の例では大相撲のビデオ判定による審判部の親方達の役目はいったい何なのでしょう。高さは土俵の目線で一番近いところにいる人が一番正確と力士も行司も認め合えば能書きも全く必要ないことです。すべて人間のすることは人間で解決して楽しむべきことだと思います。競馬の場合は穴先の差など興奮した観衆を静めるためにビデオ判定に待つしか仕方ないと思います。

2011.07.24
西川　義行